

心臓がかたくなると起こる心不全、ご存知でしょうか？

熊本機能病院 循環器内科 原田栄作

頭がかたく、人の言うことを聞かないのを頑固者と言います。

「もっと人の言うことを素直に聞いていると、もっと楽だろうに」と思える方々のことです。そういう私も、何を隠そう、その例に漏れず頑固者の肥後もっこすです。面白いことに、心臓がかたくなると、負荷がかかると適応できなくなり、それが原因で心不全になるようです。心臓は、休みなく黙って身体中に必要な血液と栄養を送っています。まるであなたのように。いつも、いつも黙って頑張っています。そのため、悪くなった時には、「こんなにも悪くなっていたの！」となるわけです。肝臓にしても、腎臓にしても臓器はみんな頑張り屋さんです。悪くなるまで黙々と働き続けます。

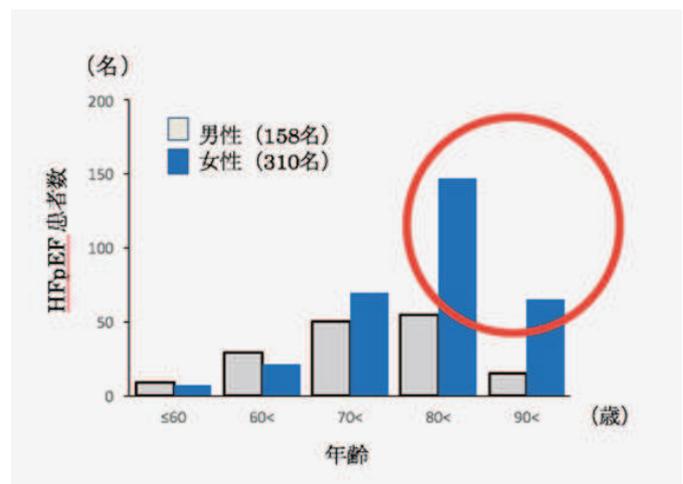
心臓の動きは、簡単に言うと、押し出す力（収縮能）、受け入れる力（拡張能）と打つ早さ（心拍数）で決まります。押し出す力が弱った心不全（HFrEF）はとても死亡率が高かったので、この30年どんどん研究がなされました。意外と知られてませんが、治療法がない時代、心不全は癌と同じかそれ以上に死亡率が高い病気だったのです。研究のおかげで重症度に比例して増えるBNP採血や、収縮具合や心肥大を直接観察できる心エコーなどのいい検査方法ができました。また、薬剤ではACE阻害剤、βブロッカー、アルドステロン受容体拮抗剤などの生存率を上げてくれる治療薬が次々に見つかってきました。ちなみにBNPは日本人が見つけた心臓から出るホルモンです。BNPは、血管を拡張させ、心肥大を抑え、無理して頑張ろうとする交感神経を抑える働きを持ち、心臓の負担を減らすために心不全になると増えてきます。今では、世界中で心不全指標として測られていますし、BNPの兄弟であるANPの点滴は心不全治療薬として欠かせない存在です。これらのおかげで、現在、普通に平均寿命を超えられているHFrEFの患者さんも珍しくなくなってきました。本当に、今の時代を生きている皆さんは運がいいですよ。

一方、この高齢化社会で新しく増えてきた心不全があるのです。それが、今回の見出しにある「心臓がかたくなって起こる心不全（HFpEF）」なのです。心臓の押し出す力は大丈夫なのに、受け入れる力が落ちているために、心臓に負荷がかかると容易に心不全増悪を来たします。熊本機能病院でここ3年間の心不全患者さん594名を調べてみました。するとHFrEF126名に対してHFpEFは468名でした。なんと3倍以上もHFpEFの患者さんが多かったのです。HFpEFの方たちを詳しく見てみますと、外来でパッとわかる特徴があります。80歳以上、女性、高血圧、それに脈圧（上と下の血圧の差）が大きいようです。また、採血ではHFrEFほどBNPレベルは高くなく、心エコーでは心臓の器としては大きくないのに、心臓の筋肉が分厚い特徴があります。この診断はしっかりつけることができますが、悲しいことに、治療法が現時点では有用なものが見つかっておりません。平均寿命近くで出てくる心不全なので、「それはもう心臓の寿命なのかな」という見方もあるかもしれませんが、現代は人生100年時代。もうちょっと長生きして、世の中に貢献して楽しみたいというのが皆さんの想いと察します。

現在のところ、一般的にカロリー制限が寿命を伸ばす唯一のものとして解っています。ここにHFpEF治療のヒントがあるような気がしますが、まだ解りません。これから、どんどん研究されて、新しい薬剤が発明されたり、あるいは既にある薬剤から発掘されるかもしれません。皆さん、楽しみに待っていて下さい。我々が、朗報を届けることができるかもしれませんので！それまでしっかり長生きしてくださいね。

つつい話が、長くなりました。最後まで読んでいただいて、感謝いたします。

どうも、ありがとうございました。



図：HFpEFの患者さんは高齢の女性の方に多い